

皆様おはようございます。

ペンテコステ(聖霊降臨日)の朝を迎えております。

ペンテコステはもともと過越しの祭りから7週の後のお祭りであり、初穂を祝う日でした。私たちが田植えの後のかわいらしい苗がどんどん大きくなっていくのをこの時に見ますが、春、主が新しい初穂を与えて下さるのを喜び祝うこの日、主のお約束の通り、素晴らしいことが起こりました。

1 五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、

2 突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。

この出来事はかつて主が語られたお約束の通り実現しました。

1:4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

いつの日にそれがもたらされるのかは知られないことでしたが、主の最善のタイミングで、主のお約束のとおりそのことは起こりました。それが五旬節の日でした。

主のお言葉のとおり、皆エルサレムに、ひとところに集っていると、その日、それは激しい風の轟音とともに起こりました。突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたりました。

ヨハネ 3:5 イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。

3:6 肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。

3:7 あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。

3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。

3:9 ニコデモはイエスに答えて言った、「どうして、そんなことがあり得ましょうか」。

「どうして、そんなことがあり得ましょうか」。

今日の個所にも、人間が理解しがたいという様子が多々記されています。

「だれもかれも聞いてあっけにとられた」

「驚き怪しんで言った」

「いったい、どうしたことか」

「あの人々がわたしたちの国語で、神の大きな働きを述べるのを聞くとは、どうしたことか」

「みんなの者は驚き惑って、互に言い合った、これは、いったい、どういうわけなのだろう」

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」

「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。」

こういう、神様のお始めになられる不思議な業があり、私たちは、私たちの理解を超えた素晴らしいことを神様が成さるということを知る必要があります。

3 また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。

4 すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

聖霊は、舌のような形で、そして炎のように分かれて現れ、ひとりひとりの上にとどまりました。

どうして聖霊は舌の形をして現れたのでしょうか。

この「舌」というギリシャ語の言葉は、「言語」という意味をも持ちます。昔は他国の言葉を話す人の存在がとても不思議で、真似をしようとしても、自分の舌ではどうやっても真似することが出来ず、それぞれの人はそれぞれ固有の言葉を話させる異なる舌を持っているかのように感じられたのかもしれませんが。

燃える炎の舌が与えられ、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出しました。

ここでは、「風は思いのままに吹く」ように聖霊は、弟子たちに能力を与え、瞬時に、たちどころに、弟子たちに新たな舌が与えられたように、習ってもいない言語を流ちょうに話すことをお許しになりました。これは人間には考えられない事でした。燃えるような炎の舌を与えられ、弟子たちは一心不乱に主の偉大な御業を語り続けます。

- 5 さて、エルサレムには、天下のあらゆる国々から、信仰深いユダヤ人たちがきて住んでいたが、
- 6 この物音に大ぜいの人が集まってきて、彼らの生れ故郷の国語で、使徒たちが話しているのを、だれもかれも聞いてあっけにとられた。
- 7 そして驚き怪しんで言った、「見よ、いま話しているこの人たちは、皆ガリラヤ人ではないか。
- 8 それなのに、わたしたちがそれぞれ、生れ故郷の国語を彼らから聞かされるとは、いったい、どうしたことか。
- 9 わたしたちの中には、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人もおれば、メソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、
- 10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者もいるし、またローマ人で旅にきている者、
- 11 ユダヤ人と改宗者、クレテ人とアラビヤ人もいるのだが、あの人々がわたしたちの国語で、神の大きな働きを述べるのを聞くとは、どうしたことか」。

天下のあらゆる国々から。今でいえば200の国の、7000もの言語があるとされていますが、この時代にはそれほどには分かれていなかったのかもしれませんが。

しかしここに上げてありますだけでも、実にたくさんの国の名前があります。それらの国々に離散したユダヤ人、そこで生まれ育ったユダヤ人がいました。彼らの生まれ育った故郷の言葉はもはやユダヤの言葉出来ありませんでした。ハワイからの宣教師の先生方がいらっしやいますが、移住してからの二世、三世の方々はだんだんと元々の母国語を話すことが難しくなっておられます。さらにエルサレムには、多くの国の人たちがユダヤ教に改宗して住んでいたことも分かります。

その人たちは、ユダヤ教に改宗するにあたり、会堂で教えを聞いたり、聖書の朗読を聞いたりするときにはイスラエルの言葉(アラム語とヘブル語)を理解していたことでしょう。彼らは異邦の国々から来て、神の民の国語を理解できるように努めてきたことでしょう。その言葉に自分を適応させてきたことと思います。

しかし驚くべきことに、このペンテコステの朝、それら外国人の人たちは、エルサレムで、自分の生まれ故郷の言葉を聞くこととなったのです。そして自分の生まれ故郷の言葉で神様の大きな働きをあがめる言葉を聞いたのです。

自分たちの言葉も文化も考えも、とうの昔に後ろにおいて、それらを忘れて、ユダヤの宗教と文化、言語に親しんできました。しかしこの朝、懐かしくも自分たちの生まれ故郷の言葉を、あの田舎町のガリラヤ訛りのある人たちから聞くことになろうとは。それも神様をほめたたえる言葉を聞こうとは。彼らの驚きは、そういうところにもあったに違いありません。

ヨハネ 4:19 女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。

4:20 わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。

4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。

4:22 あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

4:24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。

まさにイエス様とサマリアの女性が語り合った、「あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る、救はユダヤ人から来るからである。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来るという、その時が到来したのです。

同時にこのことは、以下の出来事の力強い成就の出来事でもありました。

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

民族、人種、言語に囚われず、ただただ聖霊によって礼拝がなされること、そうしてただただ聖霊によって新たに生まれ、霊から生れる者は霊であり、霊の求める者を理解し、神様の御心を理解し、霊とまこととをもって父を礼拝し、神の道を歩む、人が理解できなかったことを理解し、信じ、主の偉大なる大きな御業が次々と示されてその中を進ませていただく事の出来る道が示されたのです。

2:12 みんなの者は驚き惑って、互に言い合った、「これは、いったい、どういうわけなのだろう」。

2:13 しかし、ほかの人たちはあざ笑って、「あの人たちは新しい酒で酔っているのだ」と言った。

ヨハネ 3:7 あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。

3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。

私たちもまた、霊によって新たに生まれるのでなければ、不思議、理解できず、右往左往する、手探りの人生を進んでいたことと思います。しかし、わたくしたちに霊が注がれ、私たちは新たなみ旨による世界を理解するようにされているのです。

「だれもかれも聞いてあっけにとられた」

「驚き怪しんで言った」

「いったい、どうしたことか」

「あの人々がわたしたちの国語で、神の大きな働きを述べるのを聞くとは、どうしたことか」

「みんなの者は驚き惑って、互に言い合った、これは、いったい、どういうわけなのだろう」

私たちもかつてはこのように、肉の心によって、神様に向かっての心の目が閉ざされていましたが、今は聖霊によって目を開かれ、神様の知られざる御業の世界に入れられていることに感謝したいと思います。

燃えて輝く炎の舌である聖霊は、弟子たちの心に深く宿り、その燃える炎の舌によって、弟子たちの口を通して力強くイエス・キリストの証人としての歩みへと導きました。

ルカ 5:8 これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。

5:9 彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。

5:10 シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブとヨハネも、同様であった。すると、イエスがシモンに言われた、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」。

そしてその働きの初穂がこの日に生まれたことでしょう。燃える炎の舌をもって、力を受けて、備えられて、地の果てにまで。今週も主によって用いられ、進ませてくださいたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主のお約束は必ず成ることを今日も教えられ、感謝いたします。家の中を風が吹くような轟音と共に、燃える炎の舌が、弟子たち一人一人の上にとどまり、彼らは習いもしなかった外国の言葉で神様の偉大な御業を語りました。多

くの人たちが驚き、「いったいどうしたことか」と語り合いましたが、神様はそのように、私たちの人生にも「いったいどうした素晴らしいことか」と驚き、神様の偉大な御業を賛美させる御業を成してくださることに感謝いたします。今週も燃える炎の舌をもって、情熱と愛とによって御子キリストのすばらしさを証しさせて下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン